

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	社会医学特別演習 I		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(法医学) 法医損傷論 (環境保健予防医学) 生活習慣病の予防 (臨床感染制御学) 細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症、抗微生物薬、遺伝子診断、薬剤耐性菌 (成育社会医学) 子ども		
担当教員 (下線: 科目責任者)	医	(法医学) 教授 <u>近藤稔和</u> 、准教授 石田裕子、講師 野坂みずほ、講師 石上安希子 (環境保健予防医学) 教授 藤吉 朗、准教授 東山 綾、助教 竹村重輝 (臨床感染制御学) 教授 小泉祐介 (成育社会医学) 准教授 北野尚美	
	薬		
授業の概要	法医学、環境保健予防医学、臨床感染制御学、成育社会医学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における主要テーマについて文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また、分析疫学的手法などの社会医学における研究手法を理解し、研究技能の向上を目指す。		
到達目標	(法医学) 損傷の分類、成傷機転を理解する。 (環境保健予防医学) ①生活習慣病(循環器疾患や認知症を含む)の一次予防に関する最新の知見を理解し、説明できる。 ②統計ソフトの基本的な操作ができる。 ③人を対象とした研究の倫理的側面を理解する。 (臨床感染制御学) 臨床感染症学(感染症の病態・疫学・診断・治療)について最新の文献を基に知識を修得し、主体的に学んで理解を深める。 (成育社会医学) 子どもの健康の主要テーマに関わる先行研究調査の進め方を修得し、先行研究について批判的吟味ができるようになる。		

授業計画	<p>(法医学) 法医学の損傷に関する最新の文献を読み発表する。(近藤稔和/石田裕子/野坂みずほ/石上安希子)</p> <p>(環境保健予防医学) ①生活習慣病の予防に関する特定のトピックを選択し、それに関する知見の収集・整理を行い発表する。②統計ソフトの基本操作演習を行う。③「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を学ぶ。(藤吉 朗/東山 綾/竹村重輝)</p> <p>(臨床感染制御学) 臨床感染症学 (感染症の病態・疫学・診断・治療) に関する概説的な講義を行う。(小泉 祐介)</p> <p>(成育社会医学) 子どもの健康の主要テーマに関わる先行研究調査の進め方をセミナー形式で演習する。収集した論文の批判的吟味と知見のレビューをセミナー形式で演習する。(北野尚美)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100% (討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など) によりS (90点以上)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>(法医学) 【教科書】 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】 「死体検案ハンドブック」 著者：近藤稔和ら 出版社：金芳堂 「検死ハンドブック」 著者：高津光洋 出版社：南山堂 「標準法医学」 著者：池田典昭 出版社：医学書院</p> <p>(環境保健予防医学) 別途指示する。</p> <p>(臨床感染制御学) 【教科書】 「Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases, 9th edition」 著者：John E. Bennettら 出版社：Elsevier 【参考書】 「Clinical Microbiology Reviews」 出版社：American Society of Microbiology Press</p> <p>(成育社会医学) 【参考書】 「研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」」 著者：近藤克則 出版社：医学書院 「研究道 学的探求の道案内」 監修：平岡公一ら 出版社：東信堂</p>